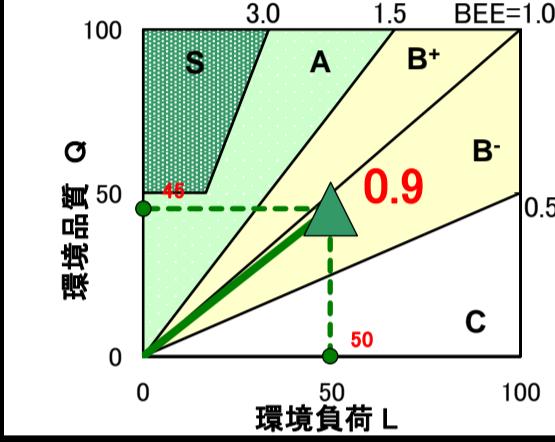
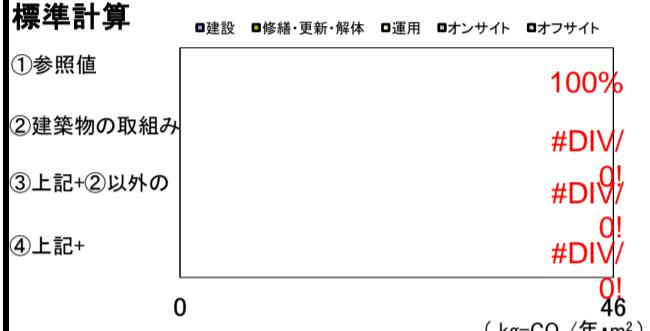
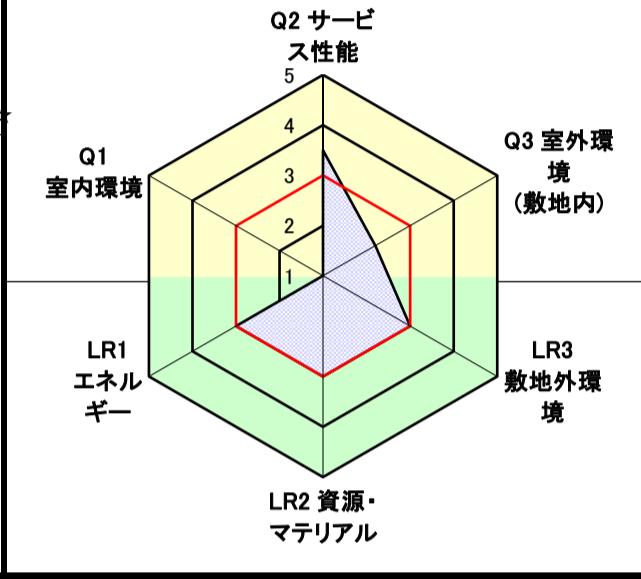
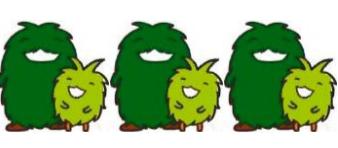
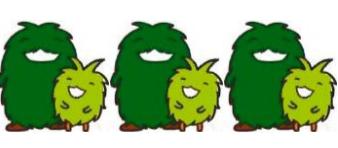
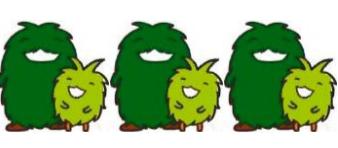


# CASBEE あいち

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	TOSMAX株式会社 倉庫	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県安城市和泉町大海古3-8	構造	RC造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年2月21日
敷地面積	2,893 m <sup>2</sup>	作成者	玉井設計 玉井秀一
建築面積	1,694 m <sup>2</sup>	確認日	2022年2月21日
延床面積	6,282 m <sup>2</sup>	確認者	玉井設計 玉井秀一

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																						
<b>BEE = 0.9</b>																										
																										
2-4 中項目の評価(バーチャート)		<p><b>Q のスコア = 2.8</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Q1 室内環境</th> <th>Q2 サービス性能</th> <th>Q3 室外環境 (敷地内)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Q1のスコア = 0.0</td> <td>Q2のスコア = 3.5</td> <td>Q3のスコア = 2.2</td> </tr> <tr> <td>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</td> <td>機能性 耐用性 対応性</td> <td>生物環境 まちなみ 地域性・</td> </tr> <tr> <td>N.A. N.A. N.A. N.A.</td> <td>3.0 N.A.</td> <td>1.0 3.0 2.5</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>LR のスコア = 3.0</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>LR1 エネルギー</th> <th>LR2 資源・マテリアル</th> <th>LR3 敷地外環境</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LR1のスコア = 3.0</td> <td>LR2のスコア = 3.0</td> <td>LR3のスコア = 3.0</td> </tr> <tr> <td>建物外皮の自然エネ 効率的 N.A. N.A. N.A.</td> <td>水資源 非再生材料の汚染物質 3.4 2.7 3.6</td> <td>地球温暖化 地域環境 周辺環境 N.A. 3.0 3.0</td> </tr> </tbody> </table>				Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.5	Q3のスコア = 2.2	音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性・	N.A. N.A. N.A. N.A.	3.0 N.A.	1.0 3.0 2.5	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR1のスコア = 3.0	LR2のスコア = 3.0	LR3のスコア = 3.0	建物外皮の自然エネ 効率的 N.A. N.A. N.A.	水資源 非再生材料の汚染物質 3.4 2.7 3.6	地球温暖化 地域環境 周辺環境 N.A. 3.0 3.0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)																								
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.5	Q3のスコア = 2.2																								
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性・																								
N.A. N.A. N.A. N.A.	3.0 N.A.	1.0 3.0 2.5																								
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境																								
LR1のスコア = 3.0	LR2のスコア = 3.0	LR3のスコア = 3.0																								
建物外皮の自然エネ 効率的 N.A. N.A. N.A.	水資源 非再生材料の汚染物質 3.4 2.7 3.6	地球温暖化 地域環境 周辺環境 N.A. 3.0 3.0																								
<p><b>3 重点項目</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>①地球温暖化への配慮</th> <th>③敷地内の緑化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N. A.</td> <td> <b>1.0</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">           ①地球温暖化への配慮            ③敷地内の緑化  <b>外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)</b>  <b>3.5 %</b> </td> </tr> <tr> <th>②資源の有効活用</th> <th>④地域材の活用</th> </tr> <tr> <td> <b>3.2</b></td> <td> <b>1.0</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">           ②資源の有効活用            ④地域材の活用  <b>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</b>  <b>なし</b>  <b>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</b>  <b>なし</b> </td> </tr> </tbody> </table>						①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	N. A.	 <b>1.0</b>	①地球温暖化への配慮 ③敷地内の緑化 <b>外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)</b> <b>3.5 %</b>		②資源の有効活用	④地域材の活用	 <b>3.2</b>	 <b>1.0</b>	②資源の有効活用 ④地域材の活用 <b>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</b> <b>なし</b> <b>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</b> <b>なし</b>										
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化																									
N. A.	 <b>1.0</b>																									
①地球温暖化への配慮 ③敷地内の緑化 <b>外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)</b> <b>3.5 %</b>																										
②資源の有効活用	④地域材の活用																									
 <b>3.2</b>	 <b>1.0</b>																									
②資源の有効活用 ④地域材の活用 <b>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</b> <b>なし</b> <b>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</b> <b>なし</b>																										
<p>各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。</p> <p>①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮 ②資源の有効活用 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減 ③敷地内の緑化 Q-3 1 生物環境の保全と創出</p> <p>外構緑化指標 = <math>\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100</math></p> <p>建物緑化指標 = <math>\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100</math></p> <p></p>																										

スコアシート	実施設計段階	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点
配慮項目	重点項目							
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-		
1.2 遮音				-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	3.0	
1.3 吸音				-	-	-	3.0	
2 溫熱環境				-	-	-		
2.1 室温制御				-	-	-		
1 室温				3.0	-	-	3.0	
2 外皮性能				3.0	-	-	3.0	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-	3.0	
2.3 空調方式				3.0	-	-	3.0	
3 光・視環境				-	-	-		
3.1 昼光利用				-	-	-		
1 昼光率				3.0	-	-	3.0	
2 方位別開口				-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	-	-	3.0	
3.2 グレア対策				-	-	-		
1 昼光制御				5.0	-	-	3.0	
3.3 照度				3.0	-	-	3.0	
3.4 照明制御				3.0	-	-	3.0	
4 空気質環境				-	-	-		
4.1 発生源対策				-	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	-	-	3.0	
4.2 換気				-	-	-		
1 換気量				3.0	-	-	3.0	
2 自然換気性能				3.0	-	-	3.0	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	3.0	
4.3 運用管理				-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-		
Q2 サービス性能					0.43	-	-	3.5
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ	独自			-	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	-	-	3.0	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	3.0	
1.2 心理性・快適性				-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	3.0	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-		
3 内装計画				3.0	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	-	-		
2 耐用性・信頼性				0.5	3.0	0.52	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振	②			0.4	3.0	0.48	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	
1 車体材料の耐用年数				-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	3.0	0.23	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	3.0	0.09	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	3.0	0.08	-	
2.4 信頼性				-	-	-	-	
1 空調・換気設備				5.0	3.0	0.15	-	
2 給排水・衛生設備				-	-	-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	
4 機械・配管支持方法				-	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	

給水・雑排水等にB以上使用

3 対応性・更新性			0.4	4.1	0.48	-	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用			1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	-	2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	-	3.0	1.0	0.21	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	3.0	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	軽量鉄骨下地採用	-	-	3.0	4.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	-	5.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			-	-	3.0	3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自		-	-	3.0	0.25	-	-	-
2 污水処理負荷抑制			-	-	3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自	駐輪場の新設・十分な駐車スペースの確保	-	-	5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			-	-	1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 基光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:3.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}$   
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 TOSMAX株式会社 倉庫

計画上の配慮事項	
総合	ピロティを設けることで風の通り道をつくり、駐車場を十分に確保することによって交通の流動化を図った。
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	倉庫部分の階高を高く確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に緑地を配置し、周辺環境に配慮している。
LR1 エネルギー	建物全体にLED照明を採用するなど省エネルギー化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含んだ建材の不使用に努めた。
LR3 敷地外環境	駐輪場の新設や適切な台数の駐車スペースの確保。また植樹帯を設け、地域の緑化に努めている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。